

巨 樹 と の 出 会 い

《 2 》 志木市の巨樹たち・・・その6

本間 敏文

宝幢寺の巨樹巡りも終わり、次に本町2丁目にあります。敷島神社の巨樹を見に行きましょう。

敷島神社は明治40年に無格社の浅間神社に、宇市場の村社の村山稻荷神社・星野稻荷神社と無格社の水神社の三社を合祀し、社名を敷島神社と改めて設立したと言われています。

さて、この神社には2本の巨樹があります。まずはクスノキの巨樹を見てみましょう。このクスノキは本殿横の外堀の内側に立っており、全体が見えないのが残念です。



【敷島神社のクスノキ】

幹周りは3.5mと小粒なるも、特に欠損もなく、健全度は良好です。

ところで、クスノキを漢字で書くと、「楠」と書かれる方が多いようですが、「樟」の方が正しいです。「楠」は中国でタブノキとなり別種の樹となります。クスノキと言えば、日本一の巨樹はクスノキです。鹿児島県の蒲生神社にあります。樹高30m、幹周り24.2mと堂々たる巨樹です。また、推定樹齢も1600年と長寿な樹です。

また、日本における巨樹のベストテンには、このクスノキが9本もランクされており、成長が早く、そして性質が丈夫だと言えます。

ところで、ご存知の方も多いと思いますが、クスノキから樟脳が採れます。

かつては、セルロイドを製造する際に、重要な原料として使われていました。現在では松脂から採れるテレピン油から合成されていますが、当時はクスノキを原料とする天然樟脳が主流で、世界の生産国が我が日本でありました。

また、樟脳と言えば、防虫剤としての用途が一番に思い出されるが、かつては強心剤（カンフル剤）として広く用いられていました。この樟脳の製造は薩摩藩が行っていました。当時の日本の輸出品でも上位にあり、ヨーロッパで使用されるカンフル剤はすべて薩摩カンフルでした。このような背景もあり、樟脳によって上げた資金によって明治維新がなされたといっても過言ではないと思います。

編集後記

◇今回は、緊急事態宣言発出の為、殆どのイベントが中止となりました。志木の自然観察（冬）については、柳瀬川の近況報告としました。里山の手入れと観察については、イベントの少ない冬号で掲載させていただきました。志木の昆虫記は今回を以って終了となります。ありがとうございました。（青木明雄）

エコシティ志木通信

第101号 2021年3月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338（天田真）

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com